

ハマ街ビト

PART 2

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が数多く存在しています。今回は、ビジネスや活動を通じて地域を盛り上げ、新たな挑戦をする“ビト”やその取り組みにスポットを当てたインタビュー記事をお届けします。

株式会社コウセイ 専務取締役 國光 一平さん

『今ある給排水管をできる限り活かす』といった「更生工事」のプロフェッショナルとして、1996年に創業した株式会社コウセイ。廃材を最小限に抑え、新管同様に生まれ変わらせる「更生工事」は、環境に配慮した工法として SDGs の取り組みにも直結しています。昨年（2024 年）発行の＜LTR 通信 2024 年秋冬号＞では、会社の強みや健康経営（※1）、SDGs・環境への取り組みなどを専務取締役の國光 一平（くにみつ・いっぺい）さんにお聞きしました。今回は、その第二弾！ 読者の皆さまからの反響が大きかった「健康経営」について、さらに深掘りしてゆきます。

（※1）健康経営：企業が従業員の健康管理を経営課題として捉え、積極的に取り組むこと。



「自然に取り組んでいたこと」が、まさに「健康経営」だった！

6 年間の教員生活を経て、お父さまが社長をされている株式会社コウセイに入社した國光さん。現在は専務取締役という立場で経営に関わることをすべて担うほか、人事や労務、受注する案件の精査なども行っています。

—御社が「健康経営」の認証取得（※2）に向けて動き出したのは、戸塚法人会主催の、LTR メンバーが講師を務める「きぎょう講習会」（「健康経営」をテーマにした講習）の受講がきっかけだったそうですね。取得まで、とてもスムーズだったとか？

（※2）「健康経営優良法人 2024 中小規模法人部門」「横浜健康経営認証 クラス A」

【國光】はい。実は「健康経営」は新たに始めたわけではなく、自分たちがこれまで自然に取り組んでいたことが、まさに「健康経営」につながることであったんです。そこで、

「せっかくだし認証を取得しよう」という流れになりました。

—「これまで自然に取り組んでいたこと」について、もう少し詳しくお聞かせいただけますか？

【國光】8 年ほど前から「従業員の心・技・体を整える！」をテーマに、いくつかの取り組みを始めました。たとえば「心」では「従業員にとって、ご家族は欠かせない存在だ」と考え、家族参加型のイベント（地引網、バーベキュー、旅行など）を開催したり、旬のもの「シャインマスカット」「恵方巻」「新米」（自社で田んぼを借りている）「鰻重」をご家族にプレゼントしたり、ですね。—従業員のご家族にも喜んでもらう、という視点は大切ですね。（前回のインタビューでも話していただきましたが）お父さまが



3 月に「健康経営優良法人 2025 中小規模法人部門」へ更新、「横浜健康経営認証 クラス AAA」へとランクアップした！

つくられた経営理念「人にやさしく 仕事に厳しく」には、「お客さまへ最善のサービスを提供すること、そのために一つひとつの仕事に対して真摯に取り組むことはもちろん、何よりも仕事をする『人』（全従業員）の満足度と幸福度を大事にする」といった考えがベースにあるとお聞きしました。まさに、これを反映した取り組みですね。

【國光】はい、そうなんです。私もこの経営理念には深く共感していて。ただ、かつては社内に既婚者が少なかったけれど、今は結婚して子どものいる従業員も多い。そのような変化に伴って、こちらから提供するものも変えてゆかねばと。

—なるほど～！ 続いて「技」「体」についても、教えてくださいませんか？

【國光】「技」では、年 2 回社内ゴルフコンペがあり、その流れでインドアゴルフは通い放題！ 若手を中心となって、定期的にフットサルもしています。「体」では、週に 1 度は無料でジムを利用することができる、冷蔵庫のプロテインを自由に飲める、現場で昼食（弁当）が支給されるなどを始めました。そういった取り組みが定着した数年後、気が付くと「健康経営」という言葉をよく聞くようになっていたのです。

—その取り組みのきっかけは、自社に課題を感じたことにあったとか？

【國光】今から 10 年ほど前、私が入社した当時は社内の雰囲気はどこか暗く、「1 年以内の離職率の高さ」「経営者目線の福利厚生」「喫煙率の高さ」「食の偏り」などの課題がありました。そこで「課題解決」の一環として考えたのが、先ほどのような取り組みです。「業務の他に楽しいことがあれば、離職率も変わるだろう」「心と体が健康になれば、職場も明るくなるだろう」といった想いでスタートしたら、予想よりも反応がよく、徐々に定着してゆきました。